

びわ湖かがやき カンパニー

びわ湖のほとりで「キラ」っと輝く滋賀県
中小企業家同友会メンバーの事業所、
商品、サービスをご紹介します。

<インタビュー>

取材まとめ：八木真紀（有限会社ウエスト）



vol. **60**
2016年6月発行

有限会社 楽市楽座

近江八幡の長命寺の近く。「水荃陶芸の里」が創業したのは1989年のこと。10年後、先代から家業を引き継ぎ、業績を伸ばし続けてきた2代目代表取締役、いまい ひさのりさんを訪ねました。（取材／4月26日）

「琵琶湖ブルー」 「普段使いの日常食器」 有名焼き物ブランドとの住み分け

「水荃焼」の販売・作陶体験スポットとして、ここ近江八幡は30年以上前から、また長浜にも店舗がありますが、業績を伸ばして来られた要因は何だとお考えですか。

今井 滋賀県の陶芸と言えば、最も有名なものが「信楽焼」です。土、焼き、細工の三つにこだわり、多くの作家たちが鋳を削りながら「芸術品」と呼ばれる高価な器をつくり上げています。陶芸作家ではない私たちが提供する



近江八幡の「水荃陶芸の里」。丘陵地を利用し、広々とした吹き抜けの館内は開放感にあふれ、木のぬくもりが心地良い造り。写真の3種類の「水荃焼」は、陶器・磁器・陶磁器で、土や石の配合によって色や風合いが異なる作品になります。

「水荃焼」は、毎日使える日常食器で、誰でも気軽に作陶体験をしていただける陶器です。琵琶湖をイメージするきれいな「ブルー」というカラーリングに最もこだわり、日本古来の線画をベースとした和陶器です。

単身赴任をする家族に「ふるさとを思い出して欲しい」と、琵琶湖ブルーの器セットを買いに来られるお客さま。また、「郷土の自然」をイメージする器として、結婚式の引き出物にも多くのご利用をいただいております。

前に誰かに聞いてずっと心に残っている「いいモノが売れる」というより、売れるモノが売れるんだ」との言葉のように、先代の頃よりブレることがなかった「琵琶湖ブルー」と「郷土の自然」という「水荃焼」のコンセプトが、お客さまに認められ、支持され続けてきたことではないでしょうか。

勉強会、全員営業 さまざまな経験が スタッフを強くする

社員教育にも力を入れておられるとか。

今井 現在の従業員数



修学旅行生や校外学習の子どもたち、また時には海外からの留学生も作陶体験に訪れます。それぞれの個性を光らせながら、オリジナルの琵琶湖ブルー「水荃焼」ができていきます。見るだけの観光とは違う「モノづくり体験」はきっと長く心に残るはず。

は、近江八幡と長浜を合わせて14名です。陶芸指導、陶器販売、レストラン（近江八幡のみ）の仕事すべてを全員がこなせるように勉強会を重ねています。毎朝実践しているのは誰もが小学生のころに経験した100マス計算。業務上、暗算を早く正しくこなすことは大切なことです。その他にも時事ニュースのディスカッション、言葉遣い、整理、整頓、パソコン研修など、さまざまな研修を就業時間内に行っています。また、大阪・神戸など県外へ全員で出向き、自転車で企業や旅行会社を回りながら営業活動を行うこともあります。業界的にも仕事内容はキツイか

（裏面に続く）



長浜の「ほっこくがま」にて。旅の合間に電動ロクロ回し体験をする女性たち。

**湖国の「水荖焼」
「モノづくりの楽しさ」を
これからも伝えて**

長浜と近江八幡の陶芸教室のお客さま層とは。また、今後の展望などをお聞かせください。
今井 平成9年、滋賀県内での人気観光地である長浜に「ほっこくがま」を

もしませんが、これら一つひとつの経験が、従業員たちを強くたくましくし、ここ数年では病気で休む社員がいないほどです。
一方で有給取得率は100%。閑散期となる冬場は長期休暇を取得できる体制を整え、仕事とプライベートにメリハリをつけ、どちらも大切にできる環境を整えています。

OPENしました。お客さま層は、黒壁に訪れる東京や東北地方など遠方の観光客がメインです。近江八幡の「水荖陶芸の里」は、作陶体験のほか、近江八幡の郷土食を取り入れたレストランを併設し、館内とバーベキューガーデンを合わせて一度に400人まで受け入れられる規模です。そのため、修学旅行生をはじめ、校外学習や子ども会、その他団体のお客さまを数多く受け入れています。近年は想定より多くのお客さまにご利用いただいております。これでも手狭になってきました。吹き抜けの木造施設も築30年以上になり、修繕を含め拡張したいところですが、隣が神社であるためこれ以上の拡張が望めないのが悩みです。ここ近江八幡は比較的狭いエリアに観光地が集中しており、琵琶湖や長命寺にも近く、立地条件の良いこの場所から移転することも考えられません。
そうであるならば、今ある近江八幡と長浜の2か所の教室・店舗で、一人でも多くの観光客の皆さまや子どもたちに「水荖焼」を見て触れて作陶体験してもらえたらと。
自分でつくった器は、重くて実際には使にくいものです。でも、押し入れに眠ってしまった器が、いつかひょっこり出てくると当時を懐かしく思い出すことができます。モノをつくるというのは人間の本能であり、とても

楽しいことであることをより多くの人に体感してもらいたいですね。これからも変わらぬ、琵琶湖ブルーの「水荖焼」を守り続けていきたいと思っています。



お客さまから届いた葉書



有限会社 楽市楽座

【水荖焼陶芸の里】
近江八幡市中之庄町620 TEL:0748-33-1345
【陶芸工房 ほっこくがま】
長浜市元浜町8-19 TEL:0749-68-2680
<http://www.mizuguki.com/>

「びわ湖かがやきカンパニー」に掲載希望の会員様は、同友会事務局までご連絡ください。お申し込み多数の場合は、理事会等で掲載順を決めさせていただきますのでご了承ください。

滋賀県中小企業家同友会事務局
TEL 077-561-5333

暑い夏、熱いイベントのお手伝い!

**ステージの組み立てから
細かな備品までイベント運営をお手伝い
「困った!」を解決します。**

イベントミストチーム TEL 0749-42-8778

微細ミストで
クールダウン



大型重機から小物機械、現場ハウスや足場まで、土木、建設現場に必要なものなんでも準備させていただきます。

SHIGAKENKI
滋賀建機グループ

滋賀建機株式会社
〒529-1314 滋賀県愛知郡愛荘町中宿160-1
TEL 0749-42-8668